

将来像の共有訴える

戸

中心市街地
活性化へ

斎藤教授が講演

水

水戸女性フォーラム
設立20周年記念講演会
がこのほど、水戸市五
軒町1丁目のみと文化
交流プラザで開かれ、

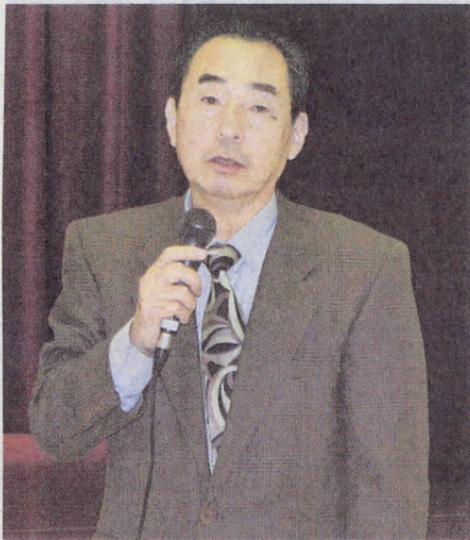
市街地再生などを研究
している茨城大文学
部教授の斎藤義則氏が
「(水戸の)中心市街
地の活性化とまちづく

り」をテーマに講演、
「実現可能な将来像を
市民が共有し、市民が
事業を起こしていく動
きが必要」と訴えた。

中、市民がどのような
役割を望むかが重要」
とし、「商業者中心の
既存の役割を延長する
活性化・再生ではな
く、多様な利害関係者
が協力して、機能と空
間を新たにつくり直す
必要がある」との方策
を示した。

斎藤氏は水戸の中心
市街地の衰退について
「スーパーやコンビニ
二、郊外のショッピン
グモール、インターネ
ット販売などが存在
し、娯楽は外より室内
という人もいる。市民
は日常の生活にあまり
困っていない」と指摘
した。

さらに「夢もいい
が、できることは何か
を考えて将来イメージ
を共有すべき」と実現
可能性の大切さも強調
した。



水戸市の中心市街地活性化などについて

語る斎藤義則氏 〓水戸市五軒町1丁目

その上で「中心街の

存在理由が薄れている

同フォーラムは19
93年に発足した市民
団体。まちづくりのた
めの地域貢献活動、行
政機関への提言などを
行っている。

(今井俊太郎)